

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2020年 第29週（7月13日～7月19日）

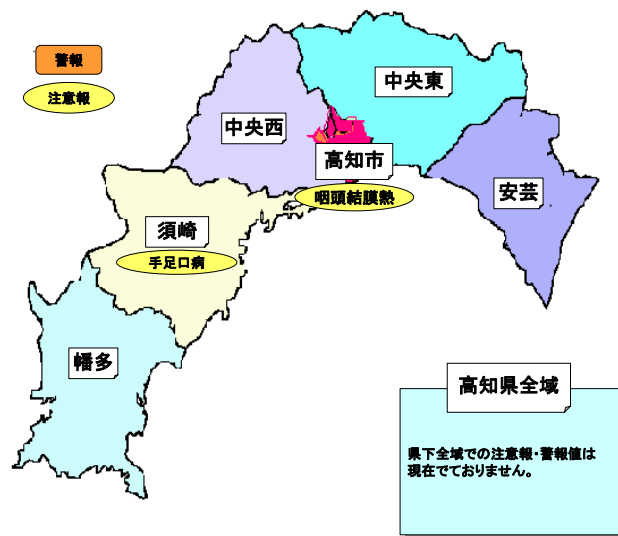
## ★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増    ↗：増加    →：横ばい    ↘：減少    ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1. 43	中央西、須崎で急減、幡多で減少していますが、安芸で急増、高知市、中央東で増加しています。
手足口病	↑	0. 93	県全域、須崎、高知市、中央東、幡多で急増し、須崎では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0. 46	幡多、中央東、須崎で急減、県全域で減少していますが、高知市で増加しています。
咽頭結膜熱	↑	0. 39	県全域、高知市で急増し、高知市では注意報値を超えています。
水痘	↑	0. 32	県全域、高知市で急増、中央東で増加しています。
突発性発疹	↘	0. 32	幡多で急減、県全域、高知市で減少していますが、須崎で急増しています。

## ★地域別感染症発生状況



## 【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・爪は短く切っていますか？
- ・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、てのひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ  
タオルの共有は避けましょう



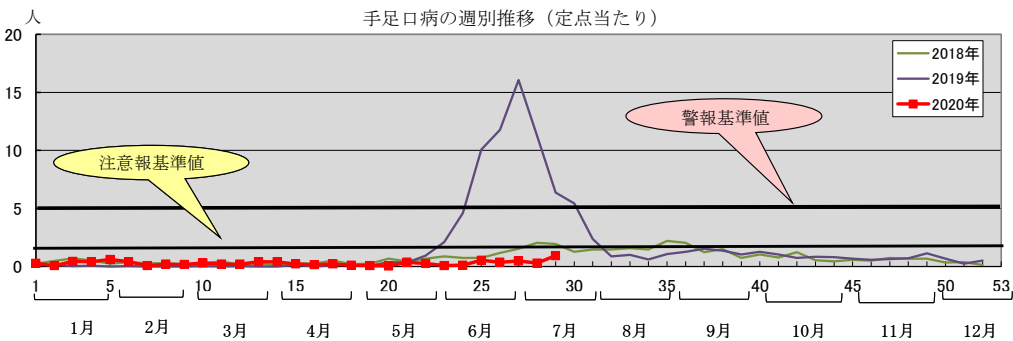
## ★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

### 夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱）が増加しています

#### ○手足口病に気を付けて！

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。



#### <予防方法>

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

#### 【学校感染症】

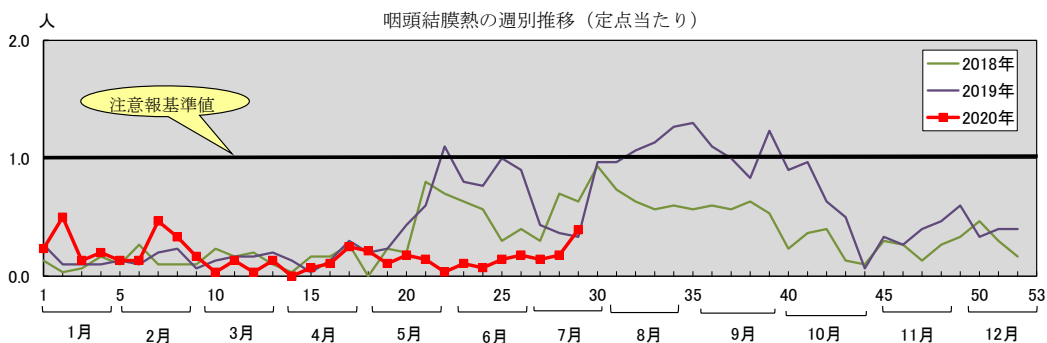
手足口病は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては出席停止の必要がある第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身症状が改善すれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない」と規定されています。

#### ○咽頭結膜熱に気を付けて！

発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。

潜伏期は5～7日で、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三主症状です。

小児、特に5歳以下に多く、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。



#### <予防方法>

- 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう
- 感染者との密接な接触は避けましょう
- タオル等は別のものを使いましょう

## 【学校感染症】

咽頭結膜熱は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「主要症状が消失した後2日を経過するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

### ダニの感染症（SFTS・日本紅斑熱）に注意！

第29週に中央西福祉保健所から「日本紅斑熱」の発生届けが1例報告されています。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は、屋外に生息するダニの一種で比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

#### 発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html)
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

## ★全数把握感染症

	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
4 類	日本紅斑熱	1	17	90 歳代 女	中央西
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1	76	20 歳代 男	
		1		30 歳代 女	幡 多

## ★定点医療機関からのホット情報

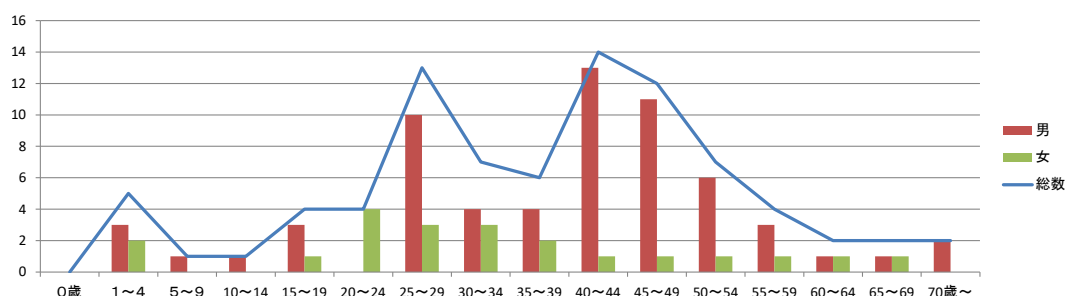
保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	アデノウイルス咽頭扁桃炎 1 例（1 歳女）
中央東	おひさまこどもクリニック	アデノウイルス扁桃炎 1 例（1 歳女）
	JA 高知病院小児科	マイコプラズマ気管支炎 3 例（1 歳女、2 歳女、10 歳男）
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 7 例（1 歳 6 人、2 歳 1 人） カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌 O103 腸炎 1 例（4 歳）
	福井小児科・内科・循環器科	水痘 2 例（6 歳男、11 歳女：2 人ともワクチン未接種） ヘルパンギーナ 3 例 手足口病 1 例
須 崎	もりはた小児科	カポジ様水痘症 1 例（13 歳男）

## ★県外で注目すべき感染症

### ○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2020年第1週～第28週の累積報告数は84人となっており、そのうち87%（73人）が成人で、25歳から50歳代の男性が中心（男性63人、女性21人）となっています。

2020年累積風しん報告数(年齢別・性別)



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

#### 【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

**対象者**・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性

・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）

・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

**検査受付**：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

**検査結果**：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html)

●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>

●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け） <https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/)

## ★ 国内における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況（2020年第27週現在）

（国立感染症研究所IDWR2020年第27号より）

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年7月8日15時現在、感染者数（死亡者数）は、世界で11,761,578例（543,259例）、190カ国・地域（集計方法変更：海外

領土が本国分に計上)に広がった。

国内では、厚生労働省からの報道発表によると、2020年7月8日24時現在、新型コロナウイルス感染症のPCR検査陽性者20,371例、うち死亡者981例と報告されている。PCR検査実施人数は527,546例であった。また、2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」については、7月8日24時現在、PCR検査陽性者712例、うち無症状病原体保有者331例、死亡者13例であった。

本稿では、2020年2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となった以降、第27週(2020年7月8日)までに感染症発生動向調査(NESID)へ届け出られた19,510例(患者17,137例、無症状病原体保有者2,341例、感染症死亡者の死体32例)(以下、症例という)に関する記述疫学および予備的なリスク状況について解説するものである。なお、本症については、サーベイランスシステムが届出に対応可能となった以降に届け出られた情報のみ反映されていることから、国や自治体の報道発表情報と必ずしも一致しておらず、注意が必要である。すなわち、以後の情報はNESIDに届け出られた症例全体の内訳であり、また、自治体による確認が行われていない報告は含まれていない。

また、令和2年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)を用いて行われることとなり、7月8日現在、移行可能な自治体から順次、移行がおこなわれているところである。厚生労働省においては、今後の統計情報の集計等については、HER-SYSに入力された情報に基づいて行うことを基本としている。本稿では、NESIDに対する届出情報のみが対象であり、HER-SYSのみへの届出情報は含まれていない点で注意が必要である。

症例の性別は、男性10,830例、女性8,680例(男女比1.2:1)であり、男性に多かった。年齢の中央値は47歳(範囲0~105)であった。年代別分布は10歳未満334例(1.7%)、10代499例(2.6%)、20代3,774例(19.3%)、30代3,084例(15.8%)、40代2,879例(14.8%)、50代2,979例(15.3%)、60代2,139例(11.0%)、70代1,939例(9.9%)、80代1,319例(6.8%)、90代以上564例(2.9%)であった。

届出時点の主な症状(重複あり)は、発熱14,357例(73.6%)、咳8,045例(41.2%)、咳以外の急性呼吸器症状1,673例(8.6%)、重篤な肺炎1,194例(6.1%)であった。

届出都道府県は、東京都7,039例、神奈川県2,126例、大阪府1,924例、埼玉県1,153例、千葉県1,068例、北海道1,049例、福岡県759例、兵庫県707例、愛知県515例、京都府364例、石川県300例、富山県226例、茨城県169例、岐阜県154例、広島県153例、群馬県149例、沖縄県141例、滋賀県99例、福井県98例、宮城県95例、奈良県90例、新潟県83例、福島県82例、静岡県82例、愛媛県82例、長野県76例、高知県74例、山形県67例、栃木県66例、和歌山県66例、大分県60例、山梨県46例、三重県46例、熊本県46例、佐賀県42例、山口県37例、青森県27例、香川県27例、岡山県25例、島根県24例、長崎県21例、宮崎県17例、秋田県16例、鹿児島県11例、徳島県6例、鳥取県3例であった。

国内では、3月上旬から海外との関連が疑われる事例が増加してきた。また、感染源不明の症例が散発的に発生し、3月中旬には感染源不明の症例の数およびその占める割合が継続的に増加してきた。3月下旬には、都市部を中心にクラスター(患者間の関連が認められた集団)感染が次々と報告され、感染者数が急増した。

国内での行政対応については、3月10日、新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部改正が閣議決定され、新型コロナウイルス感染症が新型インフルエンザ等対策特別措置法に規定する新型インフルエンザ等とみなされることになった。3月28日には「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が発表され、この中では、国民の生命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要であり、「三つの密」(密閉空間・密集場所・密接場面)を避けること、積極的疫学調査等によるクラスターの発生の封じ込めが推進されている。4月7日には7都府県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県)に対して、4月16日には全都道府県を対象に、緊急事態宣言が発出された。各自治体では、国の取り組みに並行して、流行状況に合わせた様々な取り組みが行われた。

NESID上、報告の最も多かった日は4月9日(660例)、発症の最も多かった日は、4月1日(431例:発症日の判明している症例のみ)であった(7月8日現在)。今回の流行は、3月中旬から急増し、4月初旬をピークとして、その後減少に転じ、5月中旬に落ち着いた。

5月14日、感染の状況、医療提供体制、検査体制の構築などの点が総合的に判断され、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県の8都道府県を除く、39県において緊急事態宣言の解除が行われた。その後、同様に、分析・評価が行われ5月21日に京都府、大阪府、兵庫県において、5月25日には、すべての都道府県で緊急事態宣言の解除が行われた。各自治体は、発生状況を監視のもと、一定の移行期間を設け、外出の自粛や施設の使用制限の要請等を緩和しつつ、段階的に社会経済の活動レベルを引き上げ、6

月19日には、全国を対象に県境を越える移動自粛が全面的に解除された。しかし、6月中旬以降、主に大都市及びその周辺自治体において、20代～30代を中心として増加に転じており、再び警戒が必要な時期に入ったと考えられる。

★高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVIT-19.html>

高知県の保健所別新型コロナウイルス感染症報告数

			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
7月	13	月				75			1
	14	火							
	15	水							
	16	木						76	1
	17	金							
	18	土							
	19	日							
	総計		2	4	44	5	0	21	76

数字は症例番号 青は男性 赤は女性

総計は2月28日以降の感染者

5月・6月及び7月12日までの報告は無し

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2020年7月20日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。







# 病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

## 高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2020年 第29週)

